

## ●UPS 装置の設定値が工場出荷時の設定のまま運用されている場合の危険性について

UPS 制御ソフトウェア各製品の下記手順にて表示される UPS 装置の設定値について、  
《 工場出荷時の設定のまま 》で運用されている場合、運用されているシステムに適した値でないために、システムに重大な障害が発生することがあります。

- ・ ESMPRO/AutomaticRunningController (SNMP カード制御の場合)  
AC Management Console (AMC) の電源 (連動) 装置内『電源切断猶予時間』
- ・ PowerChute Business Edition (単独で運用 または ESMPRO/UPSManager と連携して運用)  
または、ESMPRO/AutomaticRunningController (PowerChute Business Edition 連携の場合)
  - (a) PowerChute Business Edition コンソールによる確認
    - PowerChute Business Edition v. 6.1 の場合  
対象サーバの「デバイスのプロパティ」表示後、  
[シャットダウン] → [シャットダウンシーケンス] にて表示される  
『OS のシャットダウンに必要な時間』
    - PowerChute Business Edition v. 7.0 以降の場合  
対象サーバの「デバイスのプロパティ」表示後、  
[シャットダウン] → [シャットダウンシーケンス] にて表示される  
『OS』の期間
  - (b) WebUI による確認
    - <LCD パネルなし Smart-UPS の場合>  
[保護されたシステム] → [シャットダウンの設定] にて表示される  
『OS シャットダウン待機時間』
    - <LCD パネル付き Smart-UPS の場合>  
[シャットダウン] → [シャットダウンの設定] にて表示される  
『OS がシャットダウンする時間』

《 工場出荷時の設定のまま 》の場合は上記にて表示される設定値が 20 秒、または 90 秒になっています。

この値は、シャットダウン開始後、UPS 装置からの電源供給が停止するまでの時間についての設定項目になります。この設定値が短い場合、シャットダウン途中で UPS 装置からの電源供給が停止され、システムに重大な障害が発生する可能性があります。

必ず、運用されているシステムに適した値になっているかを確認し、変更の必要がある場合は設定値を変更し、運用してください。

OS のシャットダウンに必要な時間はシステム毎に異なるため、設定値は実環境のサーバを使用して OS のシャットダウン時間を複数回計測し、その結果を十分に超える時間を設定してください。

上記設定値は UPS 装置が保持している値ですので、UPS 装置を交換した場合、または UPS 装置内のバッテリーを交換した場合も同様に、設定値の確認および変更を行ってください。